



ピースボートxICAN

「オセアニア一周クルーズ」における活動の概要

第96回ピースボート「オセアニア一周クルーズ」では、ピースボートと核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)が協力して、1月24日～2月6日の間、オーストラリアの5都市で「核なき世界」を求めるイベントを行いました。

日本とオーストラリアの人々は、共に核のサイクルの被害を受けてきました。日本では広島と長崎の悲劇的な原爆投下や福島第一原子力発電所での事故、そしてオーストラリアでは西オーストラリア州・南オーストラリア州の先住民の土地で行われてきた核実験やウラン採掘での影響が続いています。

また、日本とオーストラリア両政府は、2017年に採択された核兵器禁止条約にも署名していません。両国とも、安全保障の面でもアメリカの「核の傘」に守られていると主張しています。しかし日本でもオーストラリアでも、政府に核兵器禁止条約に署名・批准するように呼びかけている力強い市民社会が存在します。

ICANが誕生した地オーストラリアで、ピースボートが寄港する5都市において一般市民向けのイベントのほか、政治家との面会、記者会見が行われました。

これらのプログラムは核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)の2017年ノーベル平和賞受賞を記念し、ICANオーストラリアとピースボートが協力して、各都市での地元団体と共に開催したものです。

スケジュール:

フリーマントル(パース)(1月24日～25日)

- 歓迎コンサート、交流会(24日夕方)
- 西オーストラリア州総督との面会(25日10時)
- ノートルダム大学でのイベント(25日午後)

アデレード 1月29日

- 港での記者会見
- Gallery Yampuで、核実験やウラン鉱山の被爆者との証言・交流会
- 同所での一般市民向けのイベント(夜)

メルボルン(1月31日～2月1日) ※船の入港は1月31日、一部参加者が一時離脱

- 船内でのレセプション(31日昼)
- ICAN設立メンバー、関係者との会合(31日午後)
- フェデレーション・スクエアでの一般向けイベント(1日夜)
※サステナブル・リビング・フェスティバルの公式イベントとして

ホバート(2月2日)

- タスマニア州議会前広場でのイベント(午後)

シドニー(2月5日～6日)

- 船内にて、先住民による伝統的な歓迎式(5日午前)
- 船内での記者会見(5日午前)
- 街頭アクション オーストラリア政府、日本領事館前の広場にて(5日昼)
- 一般向けイベント@レッドファーン・コミュニティー・センター(5日夜)

このプロジェクトで取り上げられたテーマ:

- 核兵器の実験・使用の非人道性・破滅的な影響、そして先住民族の被害
- 核兵器禁止条約
- 各国の政府を核兵器禁止条約に署名させるためのオーストラリアと日本の市民社会の役割
- オーストラリアからのウラン輸出と2011年の福島での原発事故の関係とその影響

スピーカー(参加者):

以下の方々がピースボートの第96回クルーズに乗船し、各都市でのイベントに参加しました。



- 田中熙巳 (長崎被爆者、日本原水爆被害者団体協議会代表委員)
- 三宅信雄 (広島被爆者)
- 長谷川健一、花子 (福島県飯舘村出身の酪農家、避難者)
- カリーナ・レスター (核実験被害者2世、先住民族女性)
- スコット・ラドラム (元上院議員、ICAN名誉大使)
- 川崎哲 (ピースボート共同代表・ICAN運営委員)
- ジェム・ロムルド (ICANオーストラリア・スタッフ)

ソロモン諸島外務大臣との面会

2月22日にピースボートがソロモン諸島のホニアラに寄港しました。三宅信雄、安藤真子(おりづるユース特使)、スコット・ラドラムの各氏が外務省にてジョージ・トザカ外務大臣と面会しました。広島被爆者の三宅信雄さんは証言を行い、核兵器禁止条約への署名・批准を求めました。トザカ外務大臣は前向きに応答しました。



連絡先

ICAN Australia: Gem Romuld(英語), gem@icanw.org / +61-421-955-066

Peace Boat: メリ・ジョイス(英語・日本語)、pbglobal@peaceboat.gr.jp / 03-3363-7561

<http://www.icanw.org/au/making-waves/>